

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01 経営学部国際経営学科准教授：喜治 都 先生

国際経営学科における重要な基礎知識を着実に身につける復習教材としての活用

喜治先生は、理論経済学（主としてマクロ経済理論・マクロ経済政策・マクロ的所得分配理論）を専門分野とされています。経営学部では、専門教育の入門科目として、マクロ経済学・ミクロ経済学を、高度な専門性を養う科目群においては、国際金融論等を担当されています。

国際経営学科では、今日の社会が求めている人材の養成を目指し、専門教育の基礎知識を着実に身につけていくために、Blackboard@Tamagawa（以下Bb）を復習教材として有効活用されている事例を紹介いただきます。



科目の実施規模と Blackboard の活用

- ◆科目名：ミクロ経済学 1年生 43名
マクロ経済学 1年生 55名

◆授業の概要：ミクロ経済理論については、経済理論の基本である需要と供給、および市場均衡といった概念を中心に、消費者や企業など個々の経済主体の合理的行動やそれを前提とした市場の役割、理論上のさまざまな概念や理論的分析手法についての理解を深める。マクロ経済学については、主にケインズ・モデルの理解、理論モデルにおける計算問題の解法とその応用、マクロ経済問題と財政および金融政策についての理解を深める。

Blackboard に副教材を掲載

「ミクロ経済学」「マクロ経済学」では、経済理論の基礎を学ぶべく、初心者には一見すると難解とも思われる経済用語や経済理論を、入門レベルで修得することを目的としています。経

済学では理論モデルを数式や図で表しますが、それらはただ見て理解しようとするよりも、自ら「書く」あるいは「描く」という作業を通じて経済変数間の関数関係を理解し、論理的思考および応用力を高めることができますので、講義はあくまでもホワイト・ボードを使って教員が説明し、学生はノートをとるという形式を基本としています。このような講義を前提として、各回の講義内容がどれくらい理解できたかを確認し、また復習することによって理解を確実にするための副教材として、ブラックボードを活用しています。

Blackboard コース内容

主な内容は、①チェック・シート、②クイズ、③練習問題、④もう一步進んでみよう、⑤Webの5つです。

①の「チェック・シート」とは毎回の講義で出てくる主な経済用語や理論を、10項目くら

い列挙したものです。専門科目の場合、まずは専門用語をしっかりと理解することが重要ですので、それらの用語を自分なりに理解し、それをきちんと書き出してまとめるためのものです。テキストや自分のノートを参考に、自分でまとめることが重要ですので、あえて対応する用語集は用意していません。



図1 チェックシート

②の「クイズ」は、毎回の講義が確実に理解できているかを確認するための「択一式」クイズで、公務員試験など各種資格試験における択一式試験の様式にしています。B b上でクリックして解答を教員に送信するシステムで、送信すると「正解および解説」が返信され、教員側は学生の学習状況が把握できるようになっています。これは強制ではなく、あくまでも学生の自主性にまかせています。択一式ですので、適当に解答を送信したり人に聞いて送ることもできますが、そうではなく、解答を送信した後に返信されてくる「正解および解説」でしっかりと復習することに「クイズ」の意義があります。

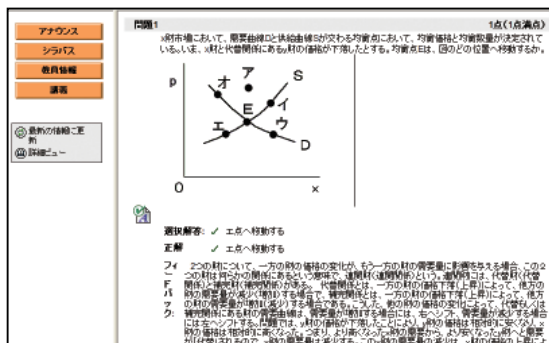


図2 クイズとフィードバック

③の「練習問題」は、毎回の講義内容についてのドリル形式でのプリントです。授業時にプリント・アウトしたものを配布し、宿題として

利用したり、また講義終了時に復習のために利用したりしますが、時間がない場合などはB bに掲載したものを各自プリントアウトするようにしています。

④の「もう一步進んでみよう」は、講義内容に関連したもので、講義中に説明できなかったもの、テキストに載っていないもの、現実経済での理論の応用、最近の経済事情など、特に、現実の経済活動や経済現象を理解するにあたり経済学的知識をどのように利用していけばよいかに焦点をあてて紹介しています。

⑤の「Web」は、経済に関する情報、統計、トピックなどを各自が自分で検索して見ることができるよう、日本銀行、財務省、総務省などのサイトを紹介しています。

今後に向けて

B bのコンテンツは、学生が自主的に予習・復習をするための副教材として位置づけていますので、第1回目の講義時に利用の仕方を説明した後は、毎回の講義の際にB bのコンテンツ内容について読んで学習するように改めて指示をすることはなく、また、学生がどれくらいB bを利用して学習しているかチェックしたりすることもありません。しかしながら、学生の自主性にまかせるとはいえ、学生はよほどの興味がわからない限り関心をもって取り組むことはあまりないようですので、今後はB bのコンテンツを利用して課題を作成させたり、クイズや練習問題を成績評価に反映させるなど、受講生のレベル・アップにつながるような積極的なB b利用に向けての工夫・改善が必要であると考えております。また、経済理論の学習が無味乾燥で抽象的なもので終わらないよう、Bbではより日常的な経済現象・経済事象を日々取り入れて、学生にとって経済学がより身近に感じられるようなコンテンツを作成すべく構想中です。最後にコンテンツの作成につきましては当初の企画から今日まで、メディア教育推進室のスタッフの皆様にご指導・ご協力いただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

テストの活用

B bを利用して、自動採点の小テストを作成し、成績表で結果を管理することができます。授業の復習、学生の理解度チェックなどに有効です。

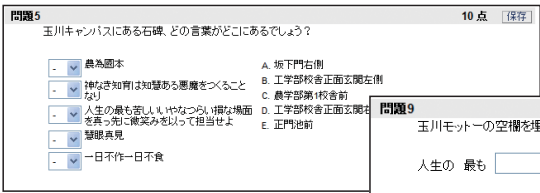
1. リアルタイムな採点とフィードバック

あらかじめ配点し、解答後は自動採点され学生に成績が通知されます。(ただし、自由記述問題は採点が必要です) 問題の正誤別にフィードバック(先生からのアドバイスなど)を入力しておくことで設定により同時に表示されます。

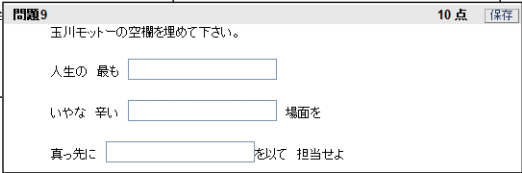


2. 多様な問題形式

様々な問題形式が準備されています。一般的な「正誤問題」、「多肢選択」などの他にも、「穴埋め」「並べ替え」「マッチング」や、図を表示して場所を指定させる「ホットスポット」など、全形式の中から内容に合わせた形式を選択し容易に問題を作成できます。



マッチング問題



複数穴埋め問題



ホットスポット問題

問題ごとにどの形式で作成するかを決めてから、作業に入ってくださいことをお勧めします。

3. オプション設定で目的に合ったテスト作成が可能

オプション設定を利用してより目的にあったテスト作成が可能になります。

◆繰り返し受けることによって効果を上げる練習問題など:

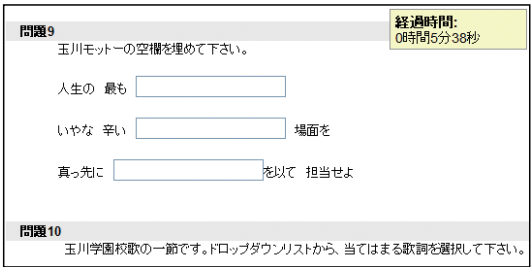
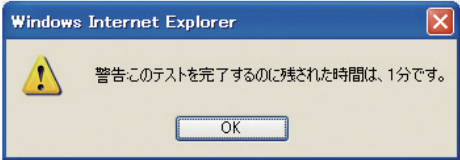
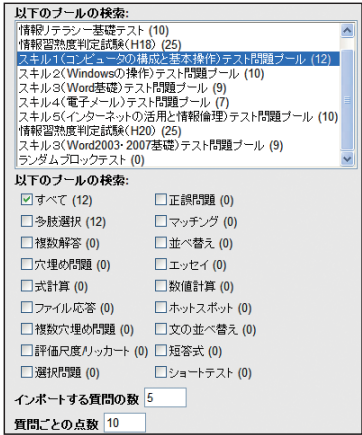
用意した複数の問題の中から、アクセスする度に数問がランダムに選択されて表示されるランダムブロック形式の問題作成ができます。

◆ヒアリング試験・ビデオ観賞後の感想文など:

動画教材や音声教材を組み合わせた問題作成ができます。

◆回答時間を制限するテスト:

テスト制限時間を設定すると、解答時に経過時間や残り時間を告げるメッセージが表示され、実際にかかった時間が成績表に記録されます。



Blackboard@Tamagawa 2008年度 春学期授業のコース統計

2008年度春学期のBbの活用率とコース統計結果をご報告します。各学部、コア科目、教職関連科目全体の活用率は45.8%、専任教員の活用率は64.1%、学生の活用率は96.3%となりました。活用率が高かったのは、リベラルアーツ学部、経営学部、文学部です。

講義資料の掲載の他に、アセスメント機能による小テスト、アンケートやディスカッションボード(BBS)など、学生からも発言出来る機能がよく使われています。また、メディア教材の活用として、教員と学生との意見交換をするためにプレゼンテーションを撮影し、Bbコース上にてストリーミング配信を行う授業も増えています。

Blackboard@Tamagawa 活用推移 (大学全体)

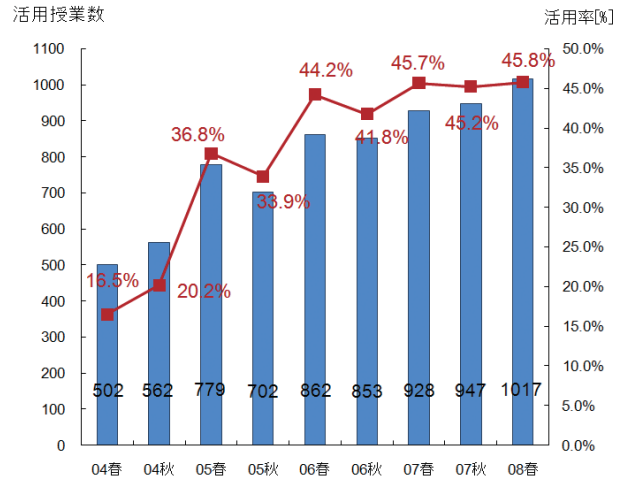


図. 授業における Blackboard @ Tamagawa 活用状況

- ①授業数：正式に登録され、開講された授業コード数
- ②活用数：①の授業のうち、Bbを活用した授業コード数
- ③活用率：授業のうち、Bbを活用している割合 (= ②÷①×100)

表 .Blackboard@Tamagawa 活用推移 (学期単位)

	2004 春		2004 秋		2005 春		2005 秋		2006 春		2006 秋		2007 春		2007 秋		2008 春	
	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率
学部																		
文学部	116	21.9%	108	26.7%	198	45.9%	183	39.3%	225	55.7%	201	49.1%	227	60.4%	207	54.8%	202	60.3%
農学部	11	5.0%	9	5.0%	39	19.4%	36	18.5%	67	29.1%	73	33.5%	74	38.4%	69	38.9%	73	39.6%
工学部	23	6.9%	25	9.8%	78	27.2%	77	28.1%	138	44.4%	123	39.8%	129	45.0%	126	49.0%	96	38.4%
経営学部	241	88.3%	240	98.1%	224	100%	225	99.2%	209	99.1%	217	97.0%	128	67.4%	171	72.2%	188	72.7%
教育学部	28	7.9%	31	14.5%	45	17.0%	48	18.4%	65	25.1%	49	19.2%	84	33.2%	75	29.9%	84	29.3%
芸術学部	20	2.5%	15	4.4%	48	24.0%	31	11.8%	63	27.0%	45	25.4%	91	28.6%	66	27.2%	76	28.7%
リベラルアーツ学部													40	79.6%	47	80.0%	84	75.8%
コア科目	19	10.2%	21	11.9%	49	26.8%	49	24.5%	67	33.0%	77	34.0%	88	49.0%	99	49.5%	91	49.8%
教職関連科目		0.0%		0.0%		11.4%		20.0%		28.6%		22.9%	5	38.5%	9	37.5%	5	38.5%
総計	462	16.5%	453	20.2%	711	36.8%	669	33.9%	834	44.2%	785	41.8%	866	45.7%	869	45.2%	899	45.8%

(注)

- ①コース数：教室での対面授業を1コースとして、授業コード区分別(各学部、コア/教職共通科目)に集計。
- ②受講者のべ数、教員実数：利用者を所属学部別に集計。
- ③活用率：各学部開講授業コードを元に集計。(図. 注釈参照)
- ④コース数と活用率の違い：コース数は、Bb 利用対面授業数を把握する目的で集計。

活用率は、全授業中の活用の割合を把握するため、授業コードを元に集計。

編集後記

今回は、国際経営学科での復習教材としての活用事例の報告をいただきました。Bbのアセスメント機能は「テストの活用」でもご紹介したように、多くの問題形式が用意され、自動採点やフィードバックなどの機能を持っています。作成のご相談および操作のご案内など、どうぞお気軽に申し出ください。

秋学期授業でもBbをぜひご活用ください。

e-Education NewsLetter 2008 Vol.3

2008年10月発行

玉川大学

eエデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園6-1-1

Tel: 042-739-8820

Fax: 042-739-8825

eメール: bbhelp@tamagawa.ac.jp